

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 22 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		小金井市ごみ対策課		
開催日時		平成 22 年 10 月 19 日 (火) 午後 2 時 40 分から午後 3 時 50 分まで		
開催場所		中間処理場事務棟 2 階 (研修室 1)		
出席者	委員	<出席者 ; 12 名> 庄司会長・植村副会長・加藤委員・竹内委員・波多野委員・ 佐藤委員・多田委員・澤島委員・伊藤委員・鈴木委員・勝又委員・ 簗口委員  <欠席者 ; 3 名>		
	事務局	深沢環境部長・三上ごみ処理施設担当部長・柿崎ごみ対策課長・ 三浦ごみ処理施設担当課長・吉沢中間処理場担当課長・鈴木ごみ対策 課長補佐・井上・中福・府川・石阪		
傍聴者の可否		可	傍聴者数	1
会議次第		1 開会 第 1 回審議会会議録の確認について 2 議題 (1)報告事項 ア 平成 22 年度可燃ごみ処理状況について イ 小金井市ごみ減量資源化施策の取り組みについて (2)平成 22 年度一般廃棄物処理計画に対する実施状況について (3)その他  ※当日は、市内中間処理施設の見学会を行った後の審議会開催とし た。 ※対象施設：小金井市リサイクル事業所及び中間処理場の 2 か所		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

提出資料	<ol style="list-style-type: none"><li>1 会議録「平成 22 年度第 1 回小金井市廃棄物減量等推進議会」</li><li>2 平成 22 年度可燃ごみ支援状況</li><li>3 燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について</li><li>4 ごみ減量への取組み</li></ol>
その他	次回開催予定 平成 22 年 11 月 25 日（木） 市役所第 2 庁舎 801 会議室

庄司 会長	<p>ただいまより、平成22年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>議事に入る前に、平成22年度第1回審議会における会議録の取り扱いについて、事務局から説明願いたい。</p>
石阪 係長	<p>本日配布した会議録「平成22年第1回廃棄物減量等審議会」は、各委員に事前に郵送し、本日の審議会において確認いただいた後、公開の手続きを行うことが本来であるが、事務手続き上の怠りにより本日の審議会開催での机上配布となった。については、ご指摘箇所等ある場合には10月26日までに事務局までご連絡いただき、修正を行った後に公開手続きをとることについてご承諾願いたい。</p>
庄司 会長	<p>第1回廃棄物減量等推進審議会の会議録については、期日までに各委員の確認を済ませた後、公開の手続きをとることについてよろしいか。</p>
委員	<p>「了承」</p>
庄司 会長	<p>それでは、本日の議題に入りたい。</p> <p>議題(1) 報告事項 ア 平成22年度可燃ごみ処理状況について事務局から報告を求める。</p>
三浦 課長	<p>資料「平成22年度可燃ごみの支援状況について」及び「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」に基づき説明。</p> <p>前回の審議会において、多摩川衛生組合、昭島市、八王子市及び日野市の4市に合計12,250トンの処理をお願いしている旨の報告をさせて頂き、また、本市の可燃ごみ処理を一番多く受け入れて頂いている多摩川衛生組合において6月にごみ処理施設のトラブルが発生し、全炉の焼却炉の運転を一時停止したことを報告させて頂いたが、すでに復旧し、現在は通常運転が再開されている。</p> <p>その後、かねてから多摩川衛生組合に支援量の増量をお願いした結果、2,000トンの増量が可能となり、年間8,000トンの支援をいただけることとなった。これにより、各団体からの支援量は、合計で15,450トンとなり、すでに搬入が終了した八王子市及び日野市の緊急対応分を差し引いた搬入見込み量は、14,468トンとなり、当初の家庭系可燃ごみの年間処理見込み量14,000トン全量の処理に一定の目処が立った。各団体の皆様のご理解とご協力に対し深く感謝申し上げる次第である。</p> <p>つづいて、資料「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」は、燃やすごみの処理量を昨年度と比較した資料であり、家庭系・事業系の可燃系処理量の実績を月ごとに示したもので、8月までに確定した処理量は、現時点で約6.8%程度の減量となっている。</p> <p>特筆すべきは、事業系が大きく減っていることが特徴的である。</p> <p>併せて、新ごみ処理施設建設事業の進捗状況について報告いたしたい。</p> <p>新ごみ処理施設建設事業は、その建設用地について市として明確な方針を持つ必要があることから、建設場所を二枚橋焼却場跡地とする行政決定したことを、前回の委員会で報告させていただいた。その後、市民説明会を開催し、関係市に</p>

	<p>も訪問し協議を行ったが、残念ながらこれまでに進展はなく、部局として引き続き努力している次第である。</p> <p>なお、建設実現のために不可欠な課題として、①「二枚橋焼却場跡地全体を確保するための関係市の理解を得ること。」、②「周辺にお住まいの皆様にご理解を得るための信頼関係を構築すること。」を柱とした処理施設建設の実現に向け努力を重ねている。</p> <p>この様な状況の中で、9月14日に開催した議会定例会中のごみ処理施設建設等調査特別委員会において、これらの報告に対する委員長発言が以下のとおりであった。</p> <p>委員長発言：「只今までの各委員の意見を踏まえ、委員長として市長に対し一言意見を申し上げる。市民検討委員会からの答申から2年、また、平成22年3月に、小金井市として新ごみ処理施設建設場所は二枚橋焼却場跡地とする行政決定してから半年が経過している。しかし、二枚橋焼却場跡地の利用にあたっては、調布市、府中市からの理解を得られている状況には至っていない。</p> <p>また、市民説明会を開催したものの市民からの理解を得られている状況にも至っていない。現在の事態は、当初、国分寺市との共同処理に向けたスケジュールがまったく進んでいない状況である。</p> <p>ごみ処理の問題は、11万人市民に直結する問題であり、小金井市にとって第一義的な仕事である。</p> <p>したがって委員長としては、小金井市が国分寺市に対して厳しい状況であることを伝え、市長自身がリーダーシップをとって具体的行動をおこし、その結果を当委員会に示すことを強く求めるものである。」</p> <p>この発言を受け、我々は調布市及び府中市に協力を求めるとともに、この問題解決に向けての理事者の行動を具体的に報告できるよう努力している。しかしながら、詳細な内容については他団体との関係もあり、この時点で明らかにすることは出来ないが、公表できる段階に至れば、この審議会に報告したい。</p>
庄司 会長	<p>ただいまの報告、並びに新ごみ処理施設建設事業の現状までの報告について質疑を行う。</p>
加藤 委員	<p>前回の資料では、多摩川衛生組合へ6,000トン、日野市へ2,250トンの支援量であったが、多摩川衛生組合の支援量が2,000トン、また、日野市が1,200トン増えたことで、8月までの5か月間の実績から推測される今年度の搬入見込み量、約14,000トンを確保できるのか。</p>
三浦 課長	<p>燃えるごみの処理量の昨年度との月別の比較についてご覧いただきたい。</p> <p>左側、平成21年度、(A)欄が他団体にご支援をいただいている状況であり、平成21年度の実績13,812.7トン、または、今年度8月までの5,815トンの二つの実績から推測すると、今年度内の搬入見込み量を確保出来るものと考えている。</p>
加藤 委員	<p>事業系を含め、8月までに6,150トンの支援を受けているのか。</p>
三浦 課長	<p>平成21年度と、平成22年度の事業系(B)欄及び(E)欄だが、事業系に</p>

	<p>については、民間での処理としているため支援量にはカウントしていない。</p>
加藤 委員	<p>国分寺市への状況報告、または、相互の話し合いは行っているのか。</p>
三浦 課長	<p>国分寺市に対しては、事務レベルではあるが現在の状況について伝えている。</p>
加藤 委員	<p>事務レベルでの交渉、または、話し合いは行われていると理解してよろしいか。</p>
三浦 課長	<p>そのとおりである。</p>
庄司 会長	<p>他に質疑はあるか。</p>
委員	<p>なし</p>
庄司 会長	<p>次に（１）イ 小金井市ごみ減量資源化施策の取組みについて事務局より報告を求める。</p>
府川 主任	<p>資料：「平成22年10月ごみ減量への取組み」に従い、パワーポイントを活用し説明</p>
庄司 会長	<p>平成21年度に生ごみ乾燥機で乾燥処理した生ごみの拠点回収量が3,805kgと出ているが、これが乾燥処理されない場合とでは、どれくらいの重量差が生じるのか。</p>
深澤 部長	<p>ほぼ4倍になる。</p>
庄司 会長	<p>乾燥生ごみが3,800kgであれば、試算すると処理機を使わない場合には15,000kg以上となる。</p>
加藤 委員	<p>小金井市の可燃ごみは少なく、排出量の少なさでは多摩地域ではトップクラスにあり、特に10万人以上の都市では、全国でも上位の実績がある。</p> <p>ただし、今後の生ごみの減量化にはかなり厳しさを感じており、昨年度8月までの家庭系の燃やすごみの処理量5,971.4トンと比較した場合、今年度は5,815.6トンであり、比較減量は155.8トンで、率にするとわずか3%しか減っていない状況にあることから、全体の比較増減率の6.8%減は事業系がかなり減っていることによるものである。</p> <p>このことから家庭系の燃やすごみの削減は、かなり限界に至っており、今後は、新たな施策が無い限り厳しい状況にある。</p> <p>今年度内の見通しについての見解を伺いたい。</p>
深澤 部長	<p>ご指摘のとおり、家庭系ごみはかなり減量率が下がっている。</p> <p>家庭ごみの戸別収集及び一部有料化を開始した平成17年度当時の処理見込み量は、約19,000トン/年であり、その中には事業系のごみも約2,400トン含まれていた。</p>

	<p>現状では、事業系のごみを含めても15,000トン弱となり、今後のごみ減量は限界に近づいていることも事実である。</p> <p>有料化することによりしばらくは減量化が進むも、その後戻ってしまう他市の事例もあるが、小金井市では広域支援で処理する現状について市民の皆様の深いご理解により継続した減量化がなされている。</p> <p>ご指摘される事業系のごみは、平成17年度当時には2,400トンあったものが、今年度は1,000トン台になる見込みである。これは前期までの審議会でご検討いただいた事業系ごみ処理手数料を2回に分けて引き上げ、始めに平成19年10月に、それまで1キログラム当たり30円であった処理料を38円に引き上げ、更に平成20年12月からは55円に引き上げている。</p> <p>多摩地域における各市毎の処理単価はそれぞれ異なるが、本市のこの単価55円は平成17年度当時の国分寺市に処理して頂いたキログラム当たり42円に焼却灰の処理費用キログラム当たり13円を加えた額で、これを事業系の処理手数料としている。</p> <p>なお、この処理費用は三多摩の中で一番高額であるが、小金井市が抱える諸事情によるものとしてご理解願いたい。</p> <p>事業系ごみは、本来、事業者が自己処理することが原則であり、事業者から委託された許可業者が他の施設に単独で持ち込むことで処理費用が安くすめば、事業者も当然そちらを選ぶことになる。</p>
竹内 委員	<p>先日開かれた市民まつりで排出されたごみは、市が関与しない民間施設が運営する中間処理施設で処理されていると理解してよろしいか。</p>
深澤 部長	<p>事業系のごみの出し方は二通りあり、小規模な事業所のごみについては、市の事業系有料ごみ袋を用いて、一般家庭のごみと一緒に収集して市の指定施設に搬送されている方法と、小規模でない事業者については有料袋を使用せず、収集運搬許可業者に委託して、直接市の指定する施設、または市が指定する施設以外の施設に搬送する方法とがある。これらのうち収集運搬許可業者によって市の指定する施設に搬送される量がここに記載されている事業系ごみ量であり、現在、大型車両に積み替えた後に、埼玉県にあるオリックス資源循環株式会社に搬送している。その他の施設で処理されているものは、別処理の扱いとなる。</p> <p>今回の市民まつりでは、あくまでも主催者責任において処理することになっており、ごみの処理は民間に委託され、委託した業者自らが指定する中間処理場で処理しているものと考えている。</p> <p>また、他のイベント等でも主催者から委託された収集運搬許可業者がいずれかの処理施設に持ち込んでいることになるが、おそらくオリックスに搬送されているものと考えている。</p> <p>三多摩地域の広域支援では、家庭系のごみだけを受け入れていただいております、事業系のごみは一切受け入れられていない。ただし、国分寺市に以前一時的に受け入れて頂いていた事例もあるが、あくまでも国分寺市と小金井市が共同処理して行くことを前提とした時点での支援であった。</p>
波多野 委員	<p>市民まつりではごみ置場を設置し、そこに持ち込まれたごみは業者がまとめて処理するため、これを減らすための食器のリユース制度を活用し減量化に努めて</p>

竹内 委員	<p>いる。トレーなども、出店者になるべくリサイクルできるものを使用しているので、最終的にごみとして出されたものは、昨年より出店者自らが処理する対策が取られたことにより、かなりのごみ減量が果たされた。</p> <p>こうしてごみとして出されたものは許可業者に委託し処理しているが、その中には市民が会場の外から持ち込んだごみや、自動販売機で購入した空き缶などが多く見受けられた。</p> <p>今年は出店者が容器を処理することを条件として出店を許可され、また、お客さんの食べ残しも出店者が責任を持って処理することを条件に開催されたことにより、市民まつりでは、ごみが出る量自体が少なくなっており、市の負担はかなり減っている。また、委託された収集運搬許可業者が、埼玉県にある民間処理施設に直接搬送することで単価も安くなり、出店者たちの処理費用の負担が軽減できたらしい。その意味でも、ますます事業系のごみ発生量は少なくなり、市が処理単価を値上げしたことが、功を奏したのではないかと。</p>
加藤 委員	<p>桜まつりではまったく異なったごみ処理の状況で、分別もあまりなされていない。「市民まつりと桜まつりではなんで違うんだ。」との声も聞く。</p> <p>ごみの分別指導を担当しているシルバー人材センターからも、市民まつりの方がよほど楽な対応ですむとの感想も伺っており、今後の課題である。</p>
竹内 委員	<p>市内の公共施設で、生ごみ処理機を利用して出来た乾燥生ごみの拠点回収が行われていて、本町分館のボックスをしばしば利用しているが、いつもいっぱいであり、入りきれないビニール袋に入れられた状態の生ごみまでが処理機の脇に置かれていることもある。また、館内の事務所の入り口付近に処理された乾燥生ごみが保管されているが、乾燥処理されたものとはいえ、やはりかなりの悪臭がただよい、好ましくない。</p> <p>対策として、持ち込み者への注意事項を出来るだけ大きく表示することや処理機器を大型化し、処理能力を上げることを要望したい。</p> <p>または、乾燥処理された生ごみの回収にあたっては、完全に密閉できる容器を備えて保管する等の工夫を講じ、施設利用者への環境改善を図る必要もある。</p>
庄司 会長	<p>回収量を多くすることは大変良いことだが、それには市民の方々の協力が必要であり、それに対する市の対応も必要となる等、回収の方法の見直しを含めて今後の課題となる。その他質疑はないか。</p> <p>次に、(2)平成22年度一般廃棄物処理計画に対する実施状況について事務局より説明を求める。</p>
石阪 係長	<p>資料：「平成22年度一般廃棄物処理計画」に基づき報告。</p> <p>計画書の全容についての説明は省略いたしたい。</p> <p>8頁、2(1)①新たに実施する施策 アからオの実施状況について報告する。</p> <p>ア(略：乾燥生ごみの戸別回収及び生ごみ堆肥化事業)</p> <p>平成22年4月以降一部地域において実施し、9月1日以降、市内全域ですでに実施されていることについて。</p> <p>イ(略：生ごみ堆肥で育てた農産物の市内販売・地域循環型社会の構築)</p>

	<p>既に、J Aの開設する直売場において販売されている他、大型スーパーの店頭販売がなされており、市内の農家及び販売店のご協力とご理解を得ながら、順調な進展がなされていることについて。</p> <p>ウ（略：電動式生ごみ処理機の「失敗しない・・・」講習会の実施） これまでに、2回の開催を行い、参加者からの好評を受けていることについて。</p> <p>エ（略：大型生ごみ処理機を活用した、行政と市民協力によるごみ減量） 東児童館に4月から設置され、これまで安定的な運用がなされていることについて。</p> <p>オ（略：中間処理場事務棟研修ホールの展示物の充実） 充実した展示物の設置等、継続した検討を行っていることについて。</p> <p>その他、平成22年度の処理量等の詳細な数字は現在集計中のため、次回の審議会の中で報告いたしたい。</p>
庄司 会長	<p>新たに実施する施策の今年度の取組み状況について説明がなされたが、その他の質問はあるか。</p>
伊藤 委員	<p>先ほどの説明で、市当局の減量努力がよく分かった。 しかし、二枚橋跡地利用の行方は見えていないが、今後10年以内に市の方針が実現することを是非とも期待したい。 今、この状況の中で私達がいかにごみを出さないかと言う事が重要であり、その努力が他市への負担を軽減することになる。 現在、概ね3,000世帯への普及にとどまる生ごみ処理機の普及割合については、現在小金井市の全世帯数、約55,000世帯の1割にも満たない普及率を考えると、今後これを引き上げるべきである。 既に小金井市は全国的に見てもごみを出さない自治体のトップクラスにあるが、引き続き生ごみ処理機を幅広く活用し、ごみを減らす心がけが大切である。 また、各ご家庭への処理機の普及や市内小中学校施設にある生ごみ乾燥機を活用する等の努力を行い、更なるごみ減量に努めることが必要である。 来年にでも焼却場が出来れば良いが、今後10年先にもその実現が分からない状況において、今後も継続したごみ減量は必要だと考えている。 市内の小中学校は、14校あり、仮に1校あたり200人利用したとして、市内全域で2,400人から2,800人規模の学校施設での生ごみ乾燥機器の活用が期待できる。 また、周知活動として学校に出向き、校長や教頭、或いは教育委員会ともタイアップし、生徒や児童の前で小金井市のごみ処理状況を訴え、子供達の口から親に伝え聞かせる間接的効果を期待すべきだと考えている。 以上が、この処理計画を読んだ感想である。</p>
加藤 委員	<p>先ほど説明のあった、新たに実施する施策アからオの実施状況の中で、「生ごみ処理機の具合が悪いので見てもらいたい。」旨の市民から要請があり、実際に出向きアドバイスした。 この様に、相談される方はよろしいが、中には機械の具合が悪くなった時点で使わなくなる方もいると思う。</p>

<p>庄司 会長</p>	<p>新たな施策の中で、「失敗しない生ごみ処理機の活用講習会」も大きな柱であるが、市民の方が補助金申請に訪れた際に、市の職員が各種生ごみ処理機の特性について知識を備え、市民に対しアドバイスを行うことにより継続的な使用が期待できる。</p> <p>また、販売業者にも継続したフォロー体制を義務付けることが必要だ。</p> <p>市民まつりである業者の方と話す機会があり、「今後は、2か月に1度のペースで伺い、苦情対応も直接行きます。」と言っていた。</p> <p>補助金も含め、せつかく5万円以上もの大金を出して購入した機器を使わなくなるのは好ましく無く、講習会以外のことも考えて行く必要がある。</p> <p>各委員からあったご意見も、平成23年度一般廃棄物処理計画の作成に向け開催される審議会場で検討を進めて行かなくてはならない。</p> <p>しかしながら、これ以上小金井市のごみ発生量を減らすと言っても、これまでにかなり減らしてきた経過があり、更なる減量施策が必要となるとは言え、その施策の展開は非常に難しい。</p> <p>来年度、小金井市のごみが、他の施設に受け入れてもらえる保証は何もなく、我が市で出来ることはごみを減らす努力以外にない。処理施設を持つ市町村であれば、「ごみを少しでも減らそう。」というスタンスでよいが、我が市の場合には、何としてでも減らさなければいけない現状にあるわけであり、このことに頭を悩ますわけである。それらの点について、次回以降に開催される審議会の中で、皆様のお知恵を是非ともお借りしたい。</p> <p>本日は、この辺で閉会したいが、他にご意見はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>新に作成する一般廃棄物処理計画は議会でも諮られるのか。</p>
<p>庄司 会長</p>	<p>そのとおりである。</p> <p>また、来年の3月末までに策定する必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>了承</p>
<p>庄司 会長</p>	<p>次回からは、来年度の一般廃棄物処理計画の策定に向けての開催となるが、第3回審議会の開催日程を11月25日とする事についてよろしいか。</p>
<p>委員</p>	<p>了承</p>
<p>庄司 会長</p>	<p>次会の開催日を、11月25日（木）午後6時00分からとし、開催通知は事務局から改めて通知することとする。</p> <p>閉会</p>